



ザ・ロンゲスト・ウォーク

大集会御法語

昭和五十三年七月十六日

於 ワシントンPC

南無妙法蓮華經

本日此所北米のワシントンDCに於て、アメリカインディアンのザ・ロンゲスト・ウォークの大行進団の大集会が開かれました。

此行進団は去二月十一日サンフランシスコ湾の小島を発足して、或は人間の棲まない砂漠に寝ね、或は一万二千呪の雪の高嶺に泊り、或は風、或は雨に濡れ、所有の困難を犯して一日に三十キロ、五十キロ、時には八十キロの道程を踏み越えて一人の落伍者も無くワシントンDCに到着されました。インディアンの祖先も、東海岸に上陸せし歐州の避難民白人達の暴力に由て西へ西へと行進を強制されました。それらは何れも涙の行進であり、血の行進でありました。其行進に由て虐殺されし婦人幼童、凍死せし者、餓死せし者等、凡そ二千万の大多数の祖先が其犠牲となりました。今日合衆国は更に生存せるインディアンを全滅せしめんとして國家権力を濫用せんとし、数多の悪法を制作しつつあります。是に

於てインディアンは其生存権を護らんが為に、純精神的に自己の正義を広く世界に訴え、非暴力的に合衆国政府の暴力を排除せんと欲して此ザ・ロンゲスト・ウォークを結成されました。

由來近代国家には国家理性と称する迷信が其根底に横つて居ります。国家は、自己の存在の為に、必要と便宜とを以て最高至極の行動原理とする云ふのであります。されば国家が自己の存立と強化の目的を達成せんが為には、諸の法規をも道徳をも宗教をも無視する事が出来ます。諸の法規も人間社会の道徳も、それらは国家の存立と強化とに有益なりと認められる範囲内に於てのみ価値が有ると云ふであります。国家主権は神聖なるものとして肯定されます。政治の現実主義と云われる権謀術数、法規を無視したり、法規をわざと偽つて解釈する事も出来ます。

元来平和を説く可き耶蘇教の宣教師を、數々戦争の発火点に使い、国家権力の代弁者と仕立てるのも近代国家の特徴であります。耶蘇教の牧師の評判が悪いのも、根本は其背景を為す国家主権論が悪いのであります。核兵器の使用も所謂国家理性、国家主権神聖論の迷信の上に立てば許されねばなりません。アメリカがアジャに於て己に核兵器を使用し、其後も數々核兵器使用を公言して世界人類を脅迫して憚らないのも其為であります。

もしアメリカ白人が必要とする土地が有れば、其土地に從来棲んで居った者は皆咸く立退かねばならぬ。そこに住んで居つた兎や蛇が立退かねばならないが如く、人間も亦立退かねばならぬと云う考え方

が合衆国の開拓精神と称するものであります。是が国家主権論の迷信から発した暴力行為となります。国家主権の暴力に由て、民族的尊厳と民族的独立とは否定せられ、將に絶滅を迫らるるインディアン民族の為には、其国家は民族の怨敵と見られるのも当然であります。

去る一九六一年十一月二十四日、国際連合総会は、「核及び熱核兵器の使用に関する宣言」を発しました。其中に、

「核及び熱核兵器のような大量破壊兵器の使用は、国際連合が戦争の苦惱から今後の世代を守り文明の保存と振興とを達成せんとして確立した崇高の理想と目的とを直接否定するものであると信じ、核及び熱核兵器の使用は戦争の目的をさえ免脱し、人類と文明に無差別の災害と破壊とを引起すであらうから、国際法の規定と人道に反するものであり、いかなる国にしても核及び熱核兵器を使用すれば、第一国連憲章に違反し、第二人道に反し、第三人道に

核及び熱核兵器の使用は敵に対する戦であるのみならず全人類に対する戦争である。

当時の軍司令官マッカーサーは、原爆の投下に由て戦争の終結を早めたと云て却て原爆投下の功蹟を自ら称賛しました。後になって又原爆を投下せし事はアメリカの青年兵士多数の生命を守らんが為であつたとも説明しました。

アメリカは誰一人として原爆投下の犯罪性を認むる者は無きのみならず、妄りに戦争勝利の歓喜に酔い原爆を平和の守護神と尊崇して、終戦後も汲々として原爆水爆の開発製造蓄積に邁進しました。

アメリカの人達は「国家の安全の為」とか「国民の利益」などと云うが如き正義感に裏打されて居る丈に、原爆投下、核兵器使用がいかに大なる災害を人類に及ぼそとも、それが却て神聖化されてしましました。結局、「核戦争に由る自滅の脅威は、世界が直面して居る最大の危険である。核兵器の大量蓄積と技術的な精度の向上が人類の最終的抹殺の危険を一層高めており、軍備拡張に由て効果的な安全保障が達成出来無い事は一層明になつておる。軍備撤発の中にこそ緊張と紛争の原因を取り除き、互恵による国際協力を確立させる基礎がある」と、昨年の三十二回国連通常総会に、ワルトハイム事務総長が国連軍縮特別総会開催を呼びかけることになつて、今年の五月二十三日から六月三十日迄の一ヶ月余に亘る国連軍縮総会が開かれました。

アメリカは已に核兵器を使用しました。世界人類の中にアメリカの戦争勝利を讃美する者は一人もおりませぬ。今后歴史は永久にアメリカの原爆投下の犯罪性を糾弾するでしょう。

アメリカは、

第一には国連憲章の違反者であり
第二には人道の違反者であり

第三には人類全体に災害をもたらす人類の敵であり

第四には文明を破壊する犯罪者であります。

国際問題は現在の悲觀す可き状勢に密着す可きものではあります。世界状勢は何等固定的のものに非して常に変化する事の出来るものであります。

核兵器の極度に発達したる今日、人類が其核兵器の智識を獲得したる現在に於ては、戦争そのものを廃絶するより外に人類の破局を救う道は有り得ない。其為には完全なる軍備撤廃をする事に全力を挙げなければならぬ。全面完全なる軍備撤廃は最早観念の遊びではなく最も現実的な解決法であります。戦争の時代、暴力の時代、殺人破壊の時代は、此所に葬り去られんとしております。

せしめんが為に全能の神を信する。他人を悪人と疑うが故に他人に恐怖を感じます。もし他人を善人と信する時に他人に恐怖感を生ぜなくなります。神の全能を見たるが故に神を信するのではありませぬ。神を信する事に由て神の全能を見んとするものであります。他人の善人なる事を見たるが故に他人を善人なりと信するのではありませぬ。他人を善人なりと信する事に由て我が恐怖感を除き、他人と親しく交ることが出来ます。現実に見ない神の全能を信じることは又、現実に見ない他人の善人なることを信じる教育訓練であります。

国家主権絶対の信念を否定し、完全に核兵器を初とする一切の軍備、一切の戦争を廢絶したる後於て、人類の新しい文明、永久的平和の時代を創造せねばなりませぬ。然るに其あとに残つた者は、昨日迄純ら軍備に由る自衛に依存せし人間計りであります。是等の人々に一番大切な要求は、軍縮に対する精神的基礎、則人類としての良心の活動であります。

科学の発展は所詮物質的文明の構成に役立ちましたが、遂に人類全滅の危機を招きました。国家主権絶対觀も精神的な疾患、懨慢心と貪欲心との増長せるものであります。

是に於ていかに組織を変えても、衆智を絞っても、もし現代人が各々自己の精神的変革の門を開かなかつたならば、相互の恐怖と不信は取除かれる目途は立たないであります。精神的変革は恥しい事ではありません。仏法では迷を断ち悟を開くと教えてあります。新しい時代の文明、恒久平和の世界建設であります。

設は精神文明の時代であります。精神文明の普遍的にして中心的なものが則宗教文明であります。是を日蓮大聖人は立正安國と呼ばれました。

母なる大地の祈りの集会の御法話

「時が来ました」

昭和五十三年五月廿五日

ニューヨーク・セントジョン・

セント・ポール・ザ・ディヴァイン教会

南無妙法蓮華經

現代の文明を科学文明と申します。

科学文明は自ら探究したところ、結果をもつて様々な機械を作りました。たとえば飛行機にしても、それから、私らここへ来るまでに歩かずに車で来ました。海の底も又、機械で自由に歩けるようになつております。こんな機械は良い事もあり悪いこともありますが、その中で最も悪かつたものは人を殺す